

子どもへの意見聴取について

1 子どもへの意見聴取の考え方(前回の振り返り)

(1)意見聴取の考え方について

- 意見聴取後の子どもへのフィードバックを大切にしたい。「意見を聴いた結果変わった」というところを見せたい。「何か変わったな」ということが分かると子どもも変わってくる。
- 最初の1回で成功事例をつくり、期待してもらうことが大事である。
- 対象案にあげた対象に意見を聴くアクションをまずは起こしたい。関係性があるところに、数が少なくても、丁寧に話を聴きたい。
- 推進計画に落とし込む内容(こういったところが施策でカバーできていない、など)を聴くことが目的。
- 聴く側の主観が入ってしまうことがあるので、意見を聴取するときは、一人ではなく複数名で聴くことが望ましい。

(2)対象やアプローチ方法について

- 不登校の子どもについては、優先順位を上げて意見を聴きたい。(コロナ禍でオンライン授業が行われた学校もあるなど、コロナをきっかけとした学びの機会の保障を継続してほしい。)
- 軽度の発達障害の子ども(グレーゾーンの子どもを含む)が学校に本当に数多くおり、皆非常に生きづらさを抱えているため、きちんと意見を聴きたい。学習につまずいてしまった子どもは字を書くことすら恐怖に感じたり難しい子どももいるため、オンラインなども活用できると良い。
- 無料塾に、学習障害のある子どもがいる。
- 中野は再開発の途中なので、「中野に何があったらうれしい？」という質問ができたら良いと思う。
- 条例制定までの過程で聴けていない子どもの意見を聴取するため、条例制定までの過程で聴いた内容(3つの質問)と同様の内容を聴取することが望ましい。

2 実施時期

令和4年7月上旬～9月上旬

3 対象

- 児童養護施設に入所している子ども
- 里親家庭で暮らす子ども
- 不登校の子ども
- 外国籍の子ども
- LGBTQ の子ども
- ヤングケアラー
- 乳幼児
- 障害のある子ども
- 難病の子ども
- ハイティーン会議の子ども

4 意見聴取する内容

(1) 条例に関する話

(2) 3つの質問

- ①あなたが「中野にあったらいいな」と思う場所はどこですか。
- ②困っているとき、悩んでいるときは、どうしていますか。
- ③あなたは何をしている時が一番楽しいですか。

5 実施方法(共通)

- 委員と事務局あわせて複数名で意見を聴取する。
- 共通のフォーマット(資料3)に沿って意見を聴取する。

6 実施方法

- ①ワークショップ
- ②ヒアリング
- ③アンケート

※子どもの希望に応じて実施方法を選択する。